



2007年12月1日

(社) デジタル放送推進協会 (Dpa)

## 地上デジタル放送普及促進活動の現在の取り組みについて

社団法人デジタル放送推進協会 (Dpa) は、2011年7月24日までに、地上アナログ放送を終了し地上デジタル放送に完全移行するために、総務省、放送局、受信機メーカー及び関連する団体などと連携し、普及促進事業に邁進しています。これまで多くの方々のご理解ご協力を賜り、地上デジタル放送受信機器の普及は順調に進み、10月末の時点で、2700万台を突破しています。一方、地デジ受信可能エリアの拡大もほぼ計画通りに推移し、今年末には、視聴可能世帯が約92%に達し、いよいよ“地上デジタル放送時代”が日本の隅々にまで広がろうとしています。

Dpaでは、「現在のアナログテレビ放送が2011年7月24日までに終了し、デジタル放送に完全移行する」ということをすべての視聴者にお知らせして正しくご理解いただき、適切に対応していただけるよう、今年度も積極的に周知広報活動を展開しております。

その一環として、今年度もSMAPの草薙剛さんにご出演いただき、2種類のテレビスポットを制作し、7月24日以降、NHKおよび全国127社の民間放送局で、それぞれの放送局ごとに年間1000本程度放送していただき周知広報に努めてきております。今年のスポットのキャッチフレーズは、1つは「地デジにするにはワケがある。知ってください、地デジのこと。」で、なぜアナログ放送を終了するのか、なぜデジタル放送に移行するのか、地デジにする意味合いを理解していただきたいと呼びかけるものです。もう一つは、「あっち、こっち、地デジ。」地デジのすばらしさを理解し楽しんでいただいている家庭がどんどん増えていることをお知らせするものです。

もう一つの取り組みは、“地デジ体感”全国キャラバンです。こちらは、地デジを見るにはどうすればいいのか？ アンテナは交換する必要があるのか？ など、視聴者の方々の疑問に丁寧にお答えしつつ、実際にデジタル放送の魅力を実感してもらい理解を深めていただくことを主な目的として、総務省とDpaの主催で、(社)日本民間放送連盟、日本放送協会、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)に特別協賛していただき、展開してきました。4トントラックのキャラバンカーには、デジタルハイビジョンテレビ、ハイビジョン録画機器、デジタル放送対応パソコン・カーナビ、ワンセグ対応携帯電話、受信アンテナなどが積み込まれていて、デジタル放送の高画質、高音質、データ放送、電子番組ガイド(EPG)などの便利な機能を実際に体感していただくことができます。またキャラバンカーはステージにもなっていて、その地域の地デジ推進大使あるいは「レッツ！地デジ隊」がデジタル放送に関するプレゼンテーションを繰り広げます。さらに総務省地

デジコールセンター、地域の総合通信局、放送局などのご協力を得て、受信相談コーナーを設置し、地域ごとの細かな受信方法などの相談にも応じてきています。

“地デジ体感”全国キャラバンは、7月にスタートして本日まで、22都道府県39会場にお邪魔し、9000名を超える視聴者の方に体験していただいております。さらに各会場で大勢の方にアンケートにもご協力いただきました。視聴者の生の声として貴重なデータであり、今後の事業に活かしていきたいと考えています。

テレビスポットやキャラバン以外にも、「アナログ放送終了告知シール」の貼付、「地上デジタルチューナー搭載機器ロゴマーク」の提供、電気店店員、消費者団体、一般視聴者などを対象とした講習会など、様々な普及促進理解推進活動を展開しています。

しかしながら、4年足らずという短い期間に、5000万世帯、1億台ものアナログ受信機器をデジタル対応に切り替えていただくという国家的な大事業を成し遂げるためには、エリアの拡大に合わせて地域ごとにきめ細かな周知広報を行うとともに、消費者一人一人に、なぜアナログ放送を終了しデジタル放送に移行するのか、デジタル放送見るには何をすればいいのかなどを丁寧に説明しご理解いただき、具体的に準備に取り掛かっていただく必要があります。その意味で、これからの数年間が本当の正念場であり、D p aとしては、第8次行動計画にもありますように、総務省、地方自治体、放送事業者、ケーブルテレビ事業者、受信機メーカー、販売店および関係する諸団体等と一致団結して、なお一層の普及促進活動に全力をあげてまいります。

## 今年度放送の草薙剛出演テレビスポット

### 1. テレビスポット (3種類)

“地デジにするにはワケがある”編 (15秒、30秒) 出演：草薙 剛

なぜアナログ放送を終了するのか、なぜデジタル放送に完全移行するのか、地デジにする意味合いを理解していただきたいと呼びかけていきます。

2007年7月24日からNHKおよび民放127局で放送。

“あっち、こっち、地デジ”編 (15秒、30秒) 出演：草薙 剛

地デジの魅力を楽しんでいる“地デジサポーター”が、あっちにもこっちにも誕生している様子を紹介しています。

主に、2007年の10月以降にNHKおよび民放127局で放送。

“地デジの準備よろしく”編 (15秒、30秒) 出演：草薙 剛

地デジを見るためにはどんな受信機器を用意すればいいのか、その目安となるマークなどを紹介します。

2007年1月以降、NHKおよび民放127局で放送しているものを、今年度も継続放送。

### 2. テレビスポットの放送本数

NHKおよび全国127社の民間放送局に特段の協力をいただき、それぞれの放送局ごとに、年間1000本程度放送していただき、地上デジタル放送の理解促進、周知広報に努めています。

### 3. テレビスポットで紹介している電話番号とホームページアドレス

総務省地デジコールセンター 0570-07-0101

<平日9:00~21:00 土日祝日9:00~18:00>

(社)デジタル放送推進協会Dpa: <http://www.dpa.or.jp>

\*テレビスポットのお問合せは、下記までお願いいたします。

(社)デジタル放送推進協会(Dpa)

地デジ普及企画部 担当)松本 健

電話:03-5785-4035

MAIL:[matsumoto.t@dpa.or.jp](mailto:matsumoto.t@dpa.or.jp)

FAX:03-5785-3401

## “地デジ体感”全国キャラバンの概要

### 1. 事業名：“地デジ体感”全国キャラバン

主催：総務省、(社)デジタル放送推進協会 < D p a >

特別協賛：(社)日本民間放送連盟、日本放送協会

(社)電子情報技術産業協会

### 2. 目的

#### “地デジ体感”のプロモーション

今年度、地デジが見られるようになった地域を中心に、これまで地デジに関心の薄かった視聴者にも、デジタル放送の魅力・機能などを身近に手軽に体感していただくことで、理解を深めていただきました。

#### 地域ごとのきめ細かな受信相談対応

地域ごとの事情に応じたきめ細かな情報を提供するとともに、その地域の視聴者の方が知りたいことにも丁寧に答える受信相談を開催しました。

#### 各地域の普及推進事業の支援

各地の総合通信局、放送局、地方自治体などと連携して周知広報を展開するなど、各地域の地デジ普及推進事業を応援しました。

### 3. 内容

- ・地域の地デジ推進大使あるいは「レッツ！地デジ隊」(キャラバン事業のために結成された男性1名女性2名によるユニット)によるプレゼンテーション。
- ・デジタルハイビジョンの高画質、高音質5.1chサラウンド、データ放送、電子番組ガイド(EPG)などの体験。
- ・デジタル放送対応録画機器、パソコン、カーナビ、ワンセグ携帯電話などの体験。
- ・地デジ受信用UHFアンテナ、BSデジタル受信用パラボラアンテナの展示。
- ・地域の事情に応じたきめ細かな受信相談。 など

### 4. 実施期間会場 7月21日～12月1日。22都道府県39会場。

愛知県名古屋市。東京都丸ビル。青森県八戸市。大分市。福岡市。  
熊本市。広島県三原市。広島県三次市。山口県柳井市。山口県周南市。  
茨城県那珂市。茨城県つくば市。愛媛県宇和島市。高知県四万十市。  
東京都杉並第十小学校。福井県敦賀市。石川県加賀市。富山県砺波市。  
北海道八雲市。北海道苫小牧市。北海道旭川市。和歌山市。大阪市。  
山梨県甲府市。長野県松本市。静岡市。東京都東海大学菅生中学校。  
新潟市。東京都渋谷区。

### 5. “地デジ体感”全国キャラバンの総体験者数 約9000名

総走行距離 約1万6000キロ

\* “地デジ体感”全国キャラバンのお問合せは、下記までお願いいたします。

(社)デジタル放送推進協会(Dpa)

地デジ普及企画部 担当)小野田 進 電話：03-5785-4035

MAIL：[onoda.s@dpa.or.jp](mailto:onoda.s@dpa.or.jp)

FAX：03-5785-3401